



ゆめ通信

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

新年のご挨拶

日本養豚事業協同組合
理事長 松村 昌雄

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては如何な一年でしたでしょうか。昨年二月末には行動の自粛が求められ、組合として盛大に行きたいと準備していた第19回通常総会および20周年記念式典は限られた出席者のみで行うしかありませんでした。総会にて、長年組合を支えてこられた三名（稲吉さん、志澤さん、遠藤さん）が退かれ、新理事三名を迎えて豚事協は新しい体制でスタートを致しました。全国7支部のセミナーはすべてウェブ方式で行い、初めての試みで戸惑った方もいたでしょうが、今後はこのような形でのセミナーもありではないかと思えます。

一方、豚事協事務所も極力テレワーク方式で対応することで対策を実施し、無事に一年を乗り切りました。新型コロナウイルスで終止した一年になりましたが、養豚業界からは感染者が出ずに今日まで無事です。これは日頃の皆様方の対策の現れだと思えます。今後有効なワクチン接種が一日も早く実施されることが望まれます。豚熱により全頭を失った岐阜、愛知の組合員の方も徐々に経営再開、出荷が始まりましたが大変な一年だったことでしょう。今後は疾病の少ない生産性の高い経営に転換する最高のチャンスと捉えて頑張ってください。

一年を振り返りますと、2月～3月にかけて豚価が400円近くになり「大変なことになる！」と思いきや、4月・5月と豚価は急騰し700円まで達し、異常な相場となりました。米国食肉処理場での新型コロナウイルス感染、中国での豚価高騰も手伝い、上昇

した感じでした。しかし中国もじわりじわり回復しつつあるようです。それを裏付ける理由として、大量の大豆、トウモロコシを買い付けています。7月・8月ころは1ブッシェル3ドルを割り込みそうなトウモロコシの相場でしたが、南米の天候不順もあり中国の爆買いのような手当てで、トウモロコシ相場は4ドル23セント（12／6）、大豆は11ドルを超え、1月からはトン当たり3～4千円以上の値上がりになりそうな状況です。米国の豚も増え、中国も回復しつつあり、一方で国内も毎日7万頭以上出荷され、今年はかなり厳しい状況が予想されます。昨年1月～10月輸入通関量はチルド34万トン（前年対比101.3%）、フローズン41万トン（87.5%）、総計75万トン（93.3%）となり、久しぶりに前年を下回ったことも高豚価につながった理由に挙げられます。

国内の生産者は減り続けているようですが見逃せないのは生産性の向上です。1母豚当たり30頭離乳・2300kg以上の枝肉出荷達成と、一昔前では信じがたい数字が出ています。このような高い生産成績を上げている農場は何戸あるのか？ PigINFOのデータを見ても毎年増えてきています。もう30頭出荷は夢ではありません。

輸入関税125円（従量税）で守られる時間は残り2年しかありません。今年は餌高・低豚価と辛いことが予想されます。組合員の皆様と共に生産性向上、コストの削減、次世代経営を担う人材作り等、いろいろ戦略を立ててはおりますが、肝心なことはいかに積極的に組合員の参加が得られるかです。皆で夢のある経営を目指して頑張りましょう。

第20期支部セミナー開催

全てウェブ配信となった第20期の支部セミナーでは、指定配合飼料「ゆめシリーズ」の委託製造先である飼料メーカーを代表して舩本聡氏（フィード・ワン(株)畜産飼料部課長代理）に「飼料安全法について」と題した講演を、組合員を代表して5名の方々には“自農場の衛生管理”をテーマとした講演を、そして3名の養豚管理獣医師の先生方には「獣医師からみた飼養衛生管理基準の大切なポイント」と題した講演をお願いしました。また、(有)メンデルジャパンのAI技術と育種事業についての講演を、(有)メンデルジャパンの事業に関わっている立場から西川哲也氏（日の出物産(株)代表取締役専務）にご講演いただきました。同時に、内閣府より依頼のあったマイナンバーカードについての説明動画の配信も行いました。それぞれの講演の概要をご紹介します。

「(有)メンデルジャパンについて」西川哲也氏（日の出物産(株) 代表取締役専務）

採取された精液は一次希釈後、農場別の温度管理された車両でAIセンターに輸送され、精液性状検査、加工が行われた後、温度変化がないような状態で配送される。また、品質管理として保存した精液の精子奇形検査、細菌混入検査、温度モニタリングなどが行われている。育種事業としては、日本に求められる遺伝子の導入、日本の市場にマッチしたデュロック種の育種、最先端の育種改良技術の導入、バランスブリーディングを意識した育種改良を行っている。また、原種豚農場において全ての子豚の生時体重を測定し、全ての豚の正確な飼料要求率と体重を測定し、生体筋スキャン画像を撮り、背脂肪厚とロインの厚みを画像処理データとして蓄積している。

AI事業としては、精液の品質管理と生産供給体制強化のために、管理獣医師による指導やモニタリングを実施し、CSFワクチン接種地域と非接種地域に対応できる体制を確立した。

「飼料安全法について」舩本聡氏（フィード・ワン(株) 畜産飼料部 課長代理）

飼料安全法の目的は、飼料及び飼料添加物の製造

等に関する規制を行うことにより、飼料の安全性の確保及び品質の改善を図り、公共の安全の確保と畜産物等の生産の安定を確保することである。飼料の安全性確保のためのガイドラインとして目的別に様々なものが農林水産省より通知されているが、自家配やりキッド飼料を利用している農家は飼料安全法の“飼料製造業者”に該当するため、「有害物質混入防止ガイドライン」及び「食品循環資源利用飼料(エコフィード)に関するガイドライン」が直接関係することになり、製造に関する条項を遵守する義務がある。製造業者届は免除されているが（販売している場合には届出が必要）、抗菌性物質（抗生物質、合成抗菌剤）を扱う事業場の場合には、飼料製造管理者の設置及び届出が必要な場合がある。

「我が農場の衛生対策」石淵大和氏（熊本興畜(株) 代表取締役）

スリーセブン方式でウイントゥフィニッシュでの飼育管理をしている。本社農場は母豚600頭で、本社農場から車で1時間程離れている場所に母豚1200頭規模の小国農場として繁殖農場と肥育農場を（2サイト方式）を現在新設中である。本社農場はPRRSやAPPも浸潤しておりローヘルスなため、小国農場には絶対に病気を入れないように注意し、ハイヘルスを維持するために、本社農場と小国農場は完全に別管理にして、豚の移動もせず、飼料工場も別に設置している。農場HACCP認証を取得し、働きやすい職場を意識している。将来的には母豚3600頭を目指している。

「我が農場の衛生管理」栗木貢男氏（(株)ロッセ農場 代表取締役）

ロッセ農場は周りに養豚場が全くなく、一番近いところで直線距離15kmのところには1件養豚場が存在するという立地にある。1977年開設当初から、分娩舎以降は全て建物毎のAI/AOで、離乳後事故率は1%以下を維持していたが、1994年にPRRS付きの黒豚を導入したことから疾病との戦いが始まり、離乳舎事故率は15%以上が続き、その後撲滅まで23年間

苦悩の年月を過ごした。その後、黒豚は2～3年で生産を中止した。2013年には農場内でPEDが発生。そして防護柵設置等CSF対策強化後の2019年9月には農場から10km圏内でCSF陽性イノシシが発見されたが、同年10月にCSFワクチン接種が開始された。現在は、社員も含めワンウェイのシャワーイン・アウト、出荷デポの設置、HACCP認証取得、農場の周りにはワイヤーメッシュや電柵、鉄条網を設置、農場内外の石灰散布、入り口ゲートは常に施錠、外部から搬入するもの全ての物（社員の私物、資材、紙袋、出荷トラック、外部車両等）の消毒殺菌、出荷は1日1回、野鳥対策として農場の空間にテグスを設置するなど、あらゆる防疫対策を講じている。

「我が社の衛生管理」志澤輝彦氏（㈱ブライトピック 代表取締役）

衛生管理として農場防疫、農場HACCPやJGAPの導入、5Sに取り組んでいる。農場防疫としては、農場外からの病原体の侵入を防ぐ農場外防疫と、農場内での病原体の伝播を防ぐ農場内防疫の2つに分けて対策をしている。いくつかある農場のうち、ある一貫農場では従来事務所は1つだったが、毎年のように肥育豚舎からPEDが出ていたため、哺乳中の子豚に被害を出さないように肥育と繁殖で事務所を分けることにしたところ、うまく管理できるようになった。ある肥育豚舎でPEDが発生したら、その担当者が事務所に入る際には作業着を脱いで消毒液に全部漬けて、シャワーを浴びてから中に入るということを徹底している。事務所内をクリーンにすることが病気に対する防疫の1つの要素になっていると思っている。他農場に立ち入った場合のルールや、インフルエンザ感染時のルール、海外へ渡航する場合のルールなども設けている。

「未来を勝ち取れ！日本型養豚ビジネスモデル」五十嵐一春氏（㈱五十嵐ファーム 代表取締役）

高校卒業後、㈱埼玉種畜牧場および北海道西原ファームで研修後、就農した。以前は片道1時間半くらいかけて庄内平野の堆肥センターに糞を運んでおり、糞尿処理に困っていた。堆肥をたくさん使う良い処理方法はないかと考え、アスパラガス栽培に取り組むことにした。その後、(有)サミットベテリナリーサービスとコンサルタント契約を締結し、JASVベ

ンチマーキングにも参加、Topigs GP 3頭をカナダから輸入した。養豚経営で発生する堆肥及び液肥をアスパラガス栽培や水稲栽培に有効活用した循環型農業が注目され、豚事協の推薦で参加した（公社）中央畜産会主催の「平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会」で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞し、翌年の農林水産祭で日本農林漁業振興会会長賞を受賞した。また、令和元年秋の勲章では黄綬褒章を受章した。Topigs導入により生産性が大きく改善し、JASVベンチマーキングでは平成30年4～6月の1母豚当たりの粗利益が1位となった。

「マルミファームの防疫対策」稲吉克仁氏（(有)マルミファーム 代表取締役社長）

2019年6月、11月、農場から西に約3.5km地点でCSFが発生し、2020年6月には農場のある幸田町内で陽性イノシシが発見された。CSF発生後は、社員自ら外部車両だけではなく社員の車も消毒をするようにし、来訪者記録を付け、社員駐車場を農場の敷地外に移動し、外来者の入場ルールを見直すなど、防疫対策を強化した。特に3.5km地点でのCSFの発生は、その頃はワクチン接種も出来なかったためにとっても脅威で、社員からの提案で朝6時半から4人当番制で毎日（週4日／人）豚舎周囲、農場周囲道路への消毒を実施し、2020年2月にCSFワクチン抗体価が上がっているのが確認されるまで続けた。CSF対策としての防護柵、防鳥ネット、農場ゲートの設置また消毒剤や石灰等に約1,100万円費やした。今後はCSFワクチン接種費用として年間380万円程度かかると試算している（繁殖豚数365頭）。今後の対応としては、防鳥ネットの張り替え、豚舎間通路の設置、外来者用の事務所の設置などを考えている。

「PRRS侵入防御の心得～病気と闘わない養豚経営のための衛生管理の徹底とは～」松村淳氏（(有)松村牧場 専務取締役）

1971年に社長の昌雄氏が母豚10頭で養豚を始め、1983年に母豚200頭の一貫経営となり、1992年には分娩舎、離乳舎、種豚舎を全て建て替え母豚300頭に増頭し、1993年に日本SPF豚協会の認定を受けた。2017年には種豚をTopigsへ全頭切り替え、2019年には農場HACCPを取得した。豚のために何が出来るかを常に考え、ベンチマーキングPigINFOを活用し、

養豚獣医コンサルタント（㈱サミットベテリナリーサービス）の適切なアドバイスを受けながら、常に成績改善を意識した管理をしている。豚の採血検査やと場サーベイランス検査を実施し、鼻腔内検査と肺病変検査を行っている。臭気対策には力を入れており、脱臭装置を使用し豚舎から出る空気は臭いが本当に少ない状態で、近隣の住民からもクレームは来ていない。生産性の高い種豚に切り替え、定期的なコンサルタントの訪問により成績が飛躍的に向上し、1母豚当たり30頭離乳、2000kg出荷を達成し、全国No.1に向け日々奮闘している。

「獣医師から見た飼養衛生管理基準の大切なポイント」石川弘道氏（㈱サミットベテリナリーサービス 代表取締役・獣医師）

2020年7月に家畜伝染病予防法（家伝法）が改正され、飼養衛生管理基準が見直された。それに伴い、国は水際対策を強化しているが、大きなポイントは、口蹄疫に認められていた予防的殺処分の対象疾病にASFが追加されたことである。我々生産者としては家畜衛生管理基準を守り、自農場を守っていかねばならない。そのためには、隔離豚舎の設置、精液チェック、出荷車両その他の車両の侵入の制限、他の動物の侵入阻止、人の出入りの制限、へい獣処理に細心の注意を払うことが必要である。JASVが立ち上がって以来農林水産省に対して一貫して要望してきたこととして、獣医師による養豚場定期訪問サービスの確立ということが挙げられる。CSF、口蹄疫など外部からの疾病侵入に備え、日頃からのサーベイランス強化・情報収集が急務と考えられるためである。生産者と獣医療の連携で効果的なリスク回避をするためには、民間獣医師には獣医師自身のレベルアップが必要であり、行政には垣根を低くし外に開かれた行政を、生産者には日頃から気軽に相談できる獣医師の活用をお願いしたいと考えている。

「獣医師から見た飼養衛生管理基準の大切なポイント」伊藤貢氏（㈱あかばね動物クリニック 取締役・獣医師）

開業している田原市においてCSFが発生し、関連する20農場が全頭殺処分の対象となった。まずはCSFワクチンを何度も接種しても、それで100% CSF

をブロック出来るわけではないということを理解してほしい。疫学調査員がウイルスがどこにいるかを調査した中間報告で圧倒的に多かったのは、畜舎内の床で、次に多かったのは豚（表面）であった。ウイルスを持ち込まないようにするのは一番いいことではあるが、確実に豚の口に入れないようにすることを心掛けてほしい。豚の口から100個ウイルスが入ると確実に発症するが、それを抑えられれば発症しない。そのためには、①畜舎内の消毒の励行、②入室ルールの厳守、③2mmの防鳥ネットの設置、④畜舎の周りを綺麗にする、⑤地面はコンクリート・アスファルト又は大きめの砂利を敷き石灰を散布することが大事である。免疫を獲得させるために初乳をしっかりと飲ませることも大事である。飼育者は、CSF・ASF侵入時には地域に多大な迷惑をかけること、責任があることを理解し、地域で経済活動をさせてもらっているという考えが必要である。自分のことは自分で守る覚悟でASF・CSF・口蹄疫が発生しないように努力してほしい。

「獣医師から見た飼養衛生管理基準の大切なポイント」武田浩輝氏（㈱アークベテリナリーサービス 代表取締役・獣医師）

今回日本で発生しているCSFは、期間が長いこと、範囲が広いこと、伝播原因が不明瞭であることなどから、農場が疲弊していることが非常に問題となっている。今回のCSFと2010年の口蹄疫を比較してみると、口蹄疫は105日で収束したのに対し、CSFは2年以上経過している。CSF清浄国の復帰にはおそらく今後10年くらいかかると思う。この2年間で（9月10日現在）、再会できたのが40経営体、廃業されたのが10経営体、再開予定が14経営体、未定が6経営体となっており、なかなか再開できない農場もあるということが現状である。飼養衛生管理基準は生産者が最低限守るべき衛生管理方法のとりまとめであり、その遵守と実施だけで伝染病の侵入防止、まん延防止を担保するものではなく、パーフェクトな農場はない。飼養衛生管理基準の遵守とは、バイオセキュリティの弱点を認識し、生産者の自助努力で改善し、より強固なバイオセキュリティ体制を構築するためのものと認識することが大事である。（東野）

支部セミナー・質疑応答

今回の支部セミナーでは全支部に於いてフィード・ワン株式会社の舁本様に飼料安全法についてご講演いただきました。

視聴者からいくつかご質問をいただきましたので、その内容をご紹介します。

質問①：食品残さを使用している場合、肉等と接触した可能性がある場合には、加熱処理を衛生管理区域外で行うと書いてありましたが、農場敷地内に加熱施設がある場合は、衛生管理区域内になるので加熱するオープンは別の場所に移動させないといけないのでしょうか？

回答①：お問い合わせのケースでは、加熱施設を衛生管理区域外に移動する必要があります。もしくは衛生管理区域外の別施設で加熱処理してから農場敷地内に持ち込む必要があります。以下は理由になります。食品残さの飼料利用に係る規制見直しについて、農林水産のホームページに掲載しているQ&A集に以下の記載があります。

Q 4-18 加熱処理を行うタイミングは、いつですか？
仮に、畜産農家が、食品製造業者等から排出された食品残さを直接収集し、自らが飼養する家畜に給与しようとする場合は、畜産農家が自ら必要な加熱処理等を行わなければなりません。なお、令和2年6月30日付け改正後の飼養衛生管理基準では、加熱処理等が適正に行われていない食品循環資源を衛生管理区域内に持ち込んでしまうと規定されています。そのため、これらの基準が遵守されるタイミングで加熱処理を行う必要があります。この項目に関する改正内容の施行は【令和3年4月】と定められておりますので、それ以降は、衛生管理区域内に適切な加熱処理をせずに持ち込むことができません。

より詳しくは、FAMICホームページに記載の問い合わせ窓口（肥飼料安全検査部 飼料管理課 TEL 050-3797-1857）にお問い合わせください。

質問②：重金属汚染が発生しやすい混合原料としては魚粉以外にどのようなものがありますか。

回答②：魚粉を除けば、混入リスクは低いです。ただし、FAMICでは魚粉以外にも牧草、チキンミール、豚肉骨粉のモニタリング検査を実施しております。

質問③：魚粉を含め重金属等の有害物質の飼料への混入を防止するためには販売業者（持込み業者）にど

のような書類の提出を義務付ければよいでしょうか。

回答③：原料規格書を確認します。また、その原料の持ち込み業者に応じて飼料製造業者届・輸入業者届の確認をします。さらに、有害物質混入防止ガイドラインを遵守することへの同意書の入手が必要です。

質問④：サルモネラなどの人体に感染すると危険な細菌類が付着しやすい原料はありますか。原因は動物ですか。飼料会社などで飼料中にサルモネラが発見された場合はどのような対応をしますか。

回答④：主に動物質性タンパク質、油かす類がモニタリング検査の対象となりますが、必要に応じてその他の穀類、糟糠類などの検査も実施します。原因としては、原料の保管状況が関わっています。飼料原料の種類、供給メーカー、入庫日に分けて検査を実施します。（いつ入庫したどの原料からサルモネラが混入したか原因を特定します）陽性と確認した原料の使用禁止。製造工程の消毒（有機酸などを使用）。当該飼料の出荷停止。飼料が原因と特定された場合、当該飼料が給与された家畜、畜産物を対象とした検査を継続します（鶏卵を例として考えれば分かり易いかと思います）。

質問⑤：自家配製造業者（養豚場）は、獣医師の指導の下に抗菌剤を購入し、製造設備で混入することが頻繁に行われていますが、この場合“飼料製造業者の届出”が必要な業者とみなされますか。

回答⑤：飼料添加物ではなく、獣医師の処方に基づく動物薬の使用であれば、飼料安全法の対象外となります（薬事法の対象となります）。このため、飼料製造業者の届出が必要な業者とはみなされません。使用方法については、獣医師の指導に基づきます。

講演でもあったように、自家配やリキッド飼料を利用している農家は、飼料安全法の“飼料製造業者”に該当し、飼料安全法を遵守する義務があり、「安心安全な国産豚肉」を製造するための飼料を安全に製造しなければなりません。特に質問②でもあったように、魚粉を除けば混入リスクは低いとはいえ、リン酸カルシウム・輸入物のリジンなど、重金属などに代表される危険な物質が混入しかねない原料はいくらでもありますので、原料を購入する際には原料規格書を確認するなど安全性を担保するための対策を講じたうえで、飼料を製造するようくれぐれもご注意ください。



第21回 民主主義とノーサイドを考える

伊東 正吾

皆様、新年明けましておめでとうございます。

一昨年はCSF（豚熱）で国内の養豚業界が苦しみ、昨年はコロナ（COVID-19）が全世界に拡大して大打撃を与え、東京オリンピックも1年延期となりました。その発生から時間は経過しましたがの残念ながらまだ収束の兆しはなく、ワクチン接種体制も道半ばの状態ですが、明るい兆しも出ていますので今後に期待したいものです。

1. 初日の出

新年号のため1年遅れの写真になりますが、昨年同様、私の自宅がある長野県伊那市で南アルプス越しに迎えた初日の出（2020.01.01. 7:24）をお届けします（写真1）。

昨年（108号）紹介したのと同じく、2年連続で快晴の下に神々しい日の出を拝しましたが、日の出前



20200101 7:24 気温 - 10°C弱、北澤峠付近から初日の出



写真1 南アルプスの初日の出（伊那市、2020.01.01. 7:24）

（07:12）に天龍川を挟んで南アルプスとは反対（西）側に連なる中央アルプスに視線を移すと、下界はいまだ薄暗い状態ですが白き山頂の峰々はピンクに彩られ、通称「モルゲンロート（バラ色に染まる朝）」の姿を見せてくれました（写真2）。

年頭ですから明るい話題でスタートしたかったのですが、昨年11月に行われたアメリカ合衆国大統領選挙を通して憂慮すべき事態がありましたので、今後の私達日本人への戒めも意識しながら少し取り上げたいと思います。

2. USAのドタバタ

自由と民主主義の盟主とも言えるUSAにおいて、その根幹で最重要な「民主的で公正な選挙」が今回の大統領選挙において、いとも簡単に損なわれたとも言える事態がありました。換言すれば、自由と公正な社会を構成する精神において世界をリードしていると信じられていたUSAの深くて暗い闇の部分を見え隠れしてしまっ、という印象でした。



写真2 モルゲンロートに染まる中央アルプスの白く美しい峰々（宝剣岳・千畳敷以南の空木岳・南駒ヶ岳）天龍川を挟み南アルプスの反対側（西側）に位置し平地は夜明け前だが山頂には既に日が当たり、白き山肌が美しいピンク色に光り輝く一瞬の光景 2020.01.01. 7:12

そもそも民主主義とは、国の主権は人民にあるという認識であり、基本的人権・自由権・平等権、及び多数決原理や法治主義などで成り立っていることは言うまでもありません。

思い起こせば中学生の頃、民主的手法として多数決を学んだ際、必ず「少数意見尊重」の考え方がセットでした。今風に言えば、「多様性」を尊重する精神が社会の健全な持続的発展に重要であることを教えられたと、改めて認識しています。

民主主義の成立と運用には、日本風に言えば「清く正しい選挙」の存在が不可欠であり、そのためには明確なルールを定め、その規定の中で最大限に活動し評価を得ることが文明国の常識です。ただ残念ながら、一般社会では本音と建て前が存在することは現実ですので、問題発生時には真摯に向き合い改善することは当然です。

USAは歴史的経過から、合衆国大統領を選ぶ場合において個々の州の存在を意識した体制となっており、私達日本人では理解しにくいシステムも存在しますが、民主主義の基本から考えれば、今回選挙期間中や投票後に見られた各種過激な行動は、明らかに間違っていると云わざるを得ません。

あら探しをしなくとも明らかに問題だと指摘できる点を列挙すると、①投票当日の威圧的妨害活動が平然と行われる。②制度の違いに起因するとは思われるが、郵便投票の投票箱が不統一、かつ公正に管理されていない可能性がある。③州の独自性を重んじているとしても、合衆国大統領選挙であるのに選挙制度自体が統一化されていない。④選挙システムに問題があるとしても、その時点での規定で実施する以上、その制度の結果に従うのは基本かつ当然であり、異論があるならば選挙前に提議・議論を行い、結論を出して明確なルールの下で選挙を遂行するのが大原則である、という点です。

これら問題点を改善してこなかったUSA歴代政権の怠慢が今回の混迷を招いたとも言え、当然の報いでもあります。現職大統領の自己中心的かつ虚言行動と、かつてのオウム真理教のような偏りと盲目的追従者が多く存在したことから、平和と幸福を求め、多様性を貴ぶ精神とは異なる次元の動きであり、大きな違和感を持ってしまいます。

いつの時代でもどこの国でも、大なり小なり闘争は存在するのは当然ですが、従来からUSAでは、闘争の後には例え表面的だとしても、勝者は敗者をたたえ、敗者は勝者を敬い、双方が融和する慣習（儀式）が定着していました。さすが民主主義の盟主だと、尊敬の念を持っていました。しかし、今回の敗者であるトランプ氏には潔さが無いばかりか民衆の分断を煽る行動に出てしまい、まさしく見苦しくて最悪としか言いようがありませんでした。

思い起こせば、一昨年のラグビー世界大会で多くの日本国民が感動し共鳴したのは、決められたルールの中で堂々とOne for All, All for Oneの精神で戦い、ゲーム内で反則があったとしても試合終了時には全てのチームがNo Side（ノーサイド）精神を示した点にあったと思います。そしてそれは、民主主義精神と共通する清々しさにも連動していました。

今回の出来事は歴史的・世界的失態としか言えず、「残念！」の一言です。

3. 日本国内の低次元なドタバタと世界情勢

USAを批判しましたが、果たしてわが国の状況はどうでしょう。USAのスケールと内容とは異なりますが、「フーテンの寅さん」的目線で言えば、国民の奮闘努力とはかけ離れた次元で、相変わらず情けない事態が続いているとしか言えず、残念です。

国民不在の意思決定、自己本位で保身や忖度に走る愚か者の多さ、事実と反した答弁を我が身可愛さに平然と言い放つ厚い面の皮、そして、既得権にしがみついているのうのうとしている輩など、本当に情けなくなります。これらのことから本誌前号（No.113）では、特に現在の国政における不条理な点が多いことから閉塞感が充満していると指摘しました。

多くの国民が実感している閉塞感こそ大きな社会不安の「マグマだまり」そのものであり、ひとつ間違うととんでもない過激行動の導火線になり得ることも危惧されることから、特に政治家など国政に関わる者達は大いに反省し、早々に改善すべきです。

世界的に眺めると、最近では民主主義を否定する流れが目立っており、専制政治・独裁政治、そして強権政治が増加しています。多くの発展途上国では教育レベルとも関連しているかと思いますが、特定の

権力者による長期支配の下で人民は耐え忍んでおり、また、アジア近隣諸国においても、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）や中華人民共和国（中国）では朝鮮労働党または中国共産党による一党独裁の下、人権問題などで欧米諸国から強く糾弾されていることは御承知のとおりです。特に中国では、本来ならば2047年まで一国二制度を維持すると国際的に約束した香港の高度自治制度が一方的に破棄され、あり得ないほどの強権発動による一般市民への迫害が続いています。

北朝鮮の正式国名を記載してみて、改めて「民主主義」の言葉が掲げられていることに驚きを感じているのは私だけではないと思います。中国と同じく朝鮮人民共和国ではないことを改めて活字で確認し、「・・・よく（臆面もなく民主主義と）つけているな・・・」としか言えません、私には！

最近の香港、そして少し前の韓国の学生達の積極的な行動を見ていると、半世紀ほど前には日本の学生達も活発な社会運動をしていたことを思い出します。

私が高校生の際は70年安保闘争直前で全国の大学に紛争が飛び火し、東大の入試が実施できない年もあり、あおりを受けて高校でも結構集会をした記憶があります。私は70年安保闘争後に大学に進みましたが、大学では沖縄返還運動や中教審路線（筑波大開校）問題、国立大学授業料値上げ阻止闘争などで昼夜構わず多くの集会やストライキが続き、その結果、授業時間と単位不足のため2年次への進級が1カ月ほど遅れてしまいました。

60年安保から70年安保では、著しく暴力的な活動（全共闘や過激派）も存在して、集団リンチ殺人など刑事事件まで引き起こして問題となっていました。私の頃は、いわゆるノンセクト（政党や党派に属さず活動）またはノンポリ（政治運動に関心で学生運動に参加しなかった学生を指す）が多かったのも事実ですが、社会問題や大学の果たすべき使命などについて、穏やかでも熱を帯びた議論を教員と研究室で夜を徹して議論し、友人と酒を飲みながら語り明かすこともたびたびでした。また、時には下宿に不穏なオルグ活動の襲来を受け、閉口したりもしました。おそらく、そのような当時を懐かしく思い出している方も多いと思います。

当時の二十歳前後の若者達、とりわけ学生達の思いは学生運動の熱波に煽られていた影響もあったかと思いますが、一種の使命感に駆り立てられているような状況でした。それは、大学進学率が今ほどではなかった時期であったことから、大学生であるということは即ちインテリゲンチヤー（知識階級の人）であり、国の将来に思いを馳せ行動すべき存在であるとの一種の使命感を持っているのが当然であるとの思考が存在していました。今から思えば、結構肩ばかりか頭にも力が入っており、今風に言えば「面倒くさい」と毛嫌いされる状況だったかもしれません。しかし、当時の学生は、社会で起きている幾多の問題と真正面から対峙し、本気でわが国の将来を案じ、あるべき姿を求め、大人社会に対してアピールしていました。今思えば熱病のようなものだったかもしれませんが、しかしそれらは無駄で負の産物であったわけではなく、自身の成長と社会で生き抜く底力の養成に大いに役立ったように思います。

そのような経験をした者から眺める今の大学生達の実態は、社会問題に対する関心がかつての学生と比較して極端に低いと言わざるを得ず、寂しいものを感じざるを得ません。もちろん、平穏な人間関係を維持したいという気持ちは重要であり、好んでギスギスした関係をつくる必要はありませんし、しないほうが良いと思います。ただ、学生時代にこそ友人達と自身の理論を熱く戦わせることで最終的に理解し合い、結果として生涯の友として有形無形の財産になったことは確かだと思います。

4. 年初の期待

現在の混乱と事態の悪化は、客観性と先を見通せない群像に基因するとも言えます。「則天去私」の境地で、本来成すべきことを行うことが肝要だと思います。

ワクチンの実用化によりCOVID-19禍が収束・終息して平穏な日常が戻るとともに、若く新しい社会正義が広まることにより、現在の社会における閉塞感を打破し、地球環境と社会環境が大きく改善される一歩が踏み出されることに期待する次第です。

第20期女性部活動報告

第20期女性部セミナーは当初、熊本県の黒川や熊本城付近に伺う予定でした。熊本の養豚に関わる女性の方達は明るくて元気！団結力があり、面倒見がよい。という私の（勝手な）イメージがあり、お会い出来るのをとても楽しみにしておりましたが・・・今回は断念致しました。長く続いておりますコロナ禍において外出に制約もありますことから、より充実した女性部活動を企画するため、より多くの女性達から生の声を頂きご期待に応えられるような今後の活動計画に反映させていきたいと考え、組合員の皆さまに「アンケート」をお願いすることといたしました。経営者の方対象のアンケートと女性の方対象のアンケート2種類作成し郵送させて頂きました。アンケートにご協力頂いた方々、ありがとうございました。

この原稿を作成している今日現在248名の方からご返信を頂けております。予想以上の方々にご回答頂けて、大変うれしく思っております。本当にありがとうございました。

まだアンケート結果の入力が追い付かず、分析も出来ない状況でございます。入力途中ではございますが、今日までに感じた事を書かせて頂きたいと思っております。今のところ、経営者の方も女性の方も、女性部の存在を知らない方が結構多くいらっしゃいました。このアンケートで、とりあえず女性部がある事を知って頂けて良かったです。

経営者の方のアンケートにて、下記のような質問をしました。

・研修会参加費は経費で処理できますが金額の限度はありますか？

①ある、②無い、③研修参加費を経費処理していない

②無い と答えて下さった方が多かったです。

女性の皆様、経営者の方は男気があり、気前が良いと思っております。是非遠慮なさらず、参加したい旨をご相談なさってみて下さい。

女性アンケートでは、下記のような質問をしました。
・セミナー、研修内容で興味のあるものは何ですか
(複数回答可)

①養豚の技術、②女性の生き方（働き方）の講演、
③美容関係、④料理講習、⑤体験、⑥興味あるものはない、⑦その他（ ）

①養豚の技術、④料理講習、③美容関係を選択なさった方が目立ちました。

養豚の技術～男性の皆様、女性の方は更なる技術の向上で、皆様のお役に立ちたいと思っております。そして、料理講習～美味しいお料理！美味しい手作り料理を食べたら、とても幸せな気持ちになるはずですよ。美容関係～奥様や彼女はじめ、一緒に働いている女性が綺麗に美しくなったらキュンキュンして、周りの方の士気も上がるはず！（予定）

女性部では、農場に携わる女性たちを対象に2009年7月より毎年視察研修、講演会、料理講習等を開催してまいりました。昨年は私も参加致しました。昨年は、さいたま市食肉中央卸売市場で枝肉の見分け方を教えて頂いたり、セリの様子も見学致しました。普段なかなか入ることができない所です。サイボクにも行き、笹崎社長の講演や園内視察、ソーセージ等のお土産を購入し後日も食べながら余韻を楽しみました。夜、みんなで美味しいお酒を飲んでいるとき、参加者の男性から指笛を教わりました。その方はとても上手に指笛を吹いていて、盛り上げて下さっていました。指笛を何度やっても出来なくて、悔しくて翌日も練習したのですが、やはり音が全く出なくて・・・それが残念な思い出です。(笑)

女性部セミナーは農場の仕事をなさってなくてもご参加頂けます。組合員の奥様、お嫁様、女性従業員の方が対象となっておりますが、男性の方の参加も大歓迎なのです。(同僚、ご夫婦等女性同伴でお願いしております) これまで参加なさったことのない皆様のご参加を、是非おまちしております。参加して頂いた方にも、また違う驚きとワクワクをご提供できるように頑張りますので、またのご参加を是非宜しくお願い致します。ただ、あいにく今はご案内できる状況ではなく・・・早く皆様とお会い出来る状況になってほしいと願う日々です。

(小野寺)

国際養鶏養豚総合展2021 開催延期のご案内

2021年5月26日（水）～28日（金）にポートメッセなごやにて開催が予定されておりました「国際養鶏養豚総合展2021」は、新型コロナウイルス感染症がいまだ終息せず、今後の感染拡大も危惧されている中、出展者、来場者ならびに関係者の健康・安全への影響を第一に考え、円滑に有意義な展示会・講演会・プレゼンテーションを開催することが難しいと判断され、会期を延期することが決定されました。

なお、本展示会は「国際養鶏養豚総合展2022」と

して、2022年4月27日～29日の3日間ポートメッセなごやにて開催されます。



●●● 第20回 通常総会 開催のお知らせ ●●●

第20回通常総会を下記の要領にて開催致します。今回は定員を設けての開催となります。詳細は別途ご案内致しますので、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

開催日時：令和3年2月26日（金） 午後1時30分～

開催場所：大手町サンケイプラザ

東京都千代田区大手町1-7-2 TEL03-3273-2230
丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線
「大手町駅」A4・E1出口直結
JR「東京駅 丸の内」北口より徒歩7分

議案：第20期事業報告、決算（案）の承認
定款変更決議
第21期事業計画案の承認
経費の賦課徴収方法の決定

※賛助会員様は原則1団体1名様でのご参加をお願い申し上げます。
懇親会は開催いたしません。

アクセス：



編集後記

新年あけましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2020年は日本でオリンピックが開催される年ということで、養豚業界にとっては期待と不安が入り混じる幕開けとなりましたが、終わってみれば新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。

豚事協は設立20周年を迎え、第19回通常総会と同時に記念式典を盛大に開催する予定でしたが、大変残念なことに大幅に縮小しての開催となり、新たに立ち上げる予定だった「若者が夢を語る会」も開催を見送りました。そして最後まで参集してのセミナーを希望していた支部セミナーもウェブでの配信に切り替えての開催となりました。

今回は事務局同様、会員の皆様にとっても慣れないウェブ配信で、参加したくても対応が間に合わなかったという方もいらしたのではないかと考えられます。配信後に参加者に行ったアンケートでは「今後もウェブセミナーには是非参加したい」という声が多く寄せられました。しばらくはこのような状況が続くかと思われますので、参集してのセミナーが出来ない状況下で教育情報事業が提供できる機能的なツールであるウェブ配信にご理解いただき、必要に応じてパソコンやスマートフォン、Wi-Fiなどの環境を整えていただければと思います。（東）